

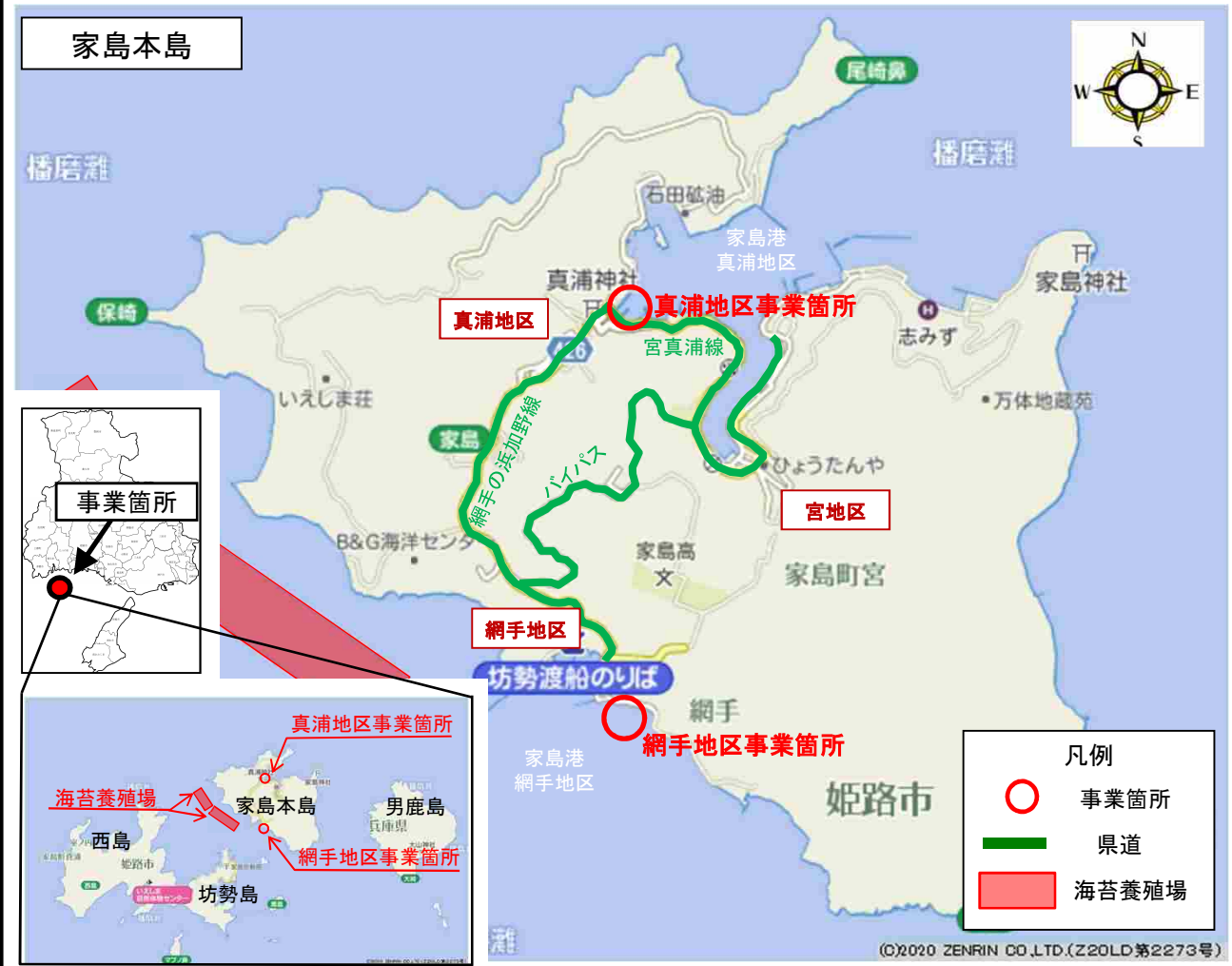
部課室名	県土整備部土木局 港湾課		記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 岸本 至泰 (整備班主幹 奥宮 英治)	内線	4440 (4450)
事業種目	港湾	新規評価年度	平成17(2005)年度		現計画	前回評価時点
事業名	家島港 改修	事業採択年度	平成18(2006)年度	総事業費	35億円	33億円
		着工年度	平成18(2006)年度	内用地補償費	－億円	－億円
		再評価年度	平成27(2015)年度	完成予定年度	令和7(2025)年度	令和2(2020)年度
事業区間	姫路市家島町			進捗率 (用補進捗率)	82% (－%)	60% (－%)
				残事業費	6億円	12億円
事業の目的			事業内容 () 前回評価時点			
家島港では安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化が求められている。このため、真浦地区の旅客船ターミナル周辺の再整備とともに、取扱貨物の一部を移転する網手地区の施設整備を行い、家島の住民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。			真浦地区	物揚場 (-3.5m) 改良 棧橋	延長 60m (60m) 延長 35m (35m)	
			網手地区	物揚場 (-3.5m) 新設 物揚場 (-4.0m) 新設 防波堤新設 ふ頭用地	延長 60m (60m) 延長 60m (60m) 延長 275m (275m) 6,500m ² (6,500m ²)	
			【負担割合】係留施設：国60%、県40% 外郭施設：国80%、県20%			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	真浦地区のターミナル周辺の再整備が完了したことにより、旅客機能の利便性が大きく向上したが、貨物機能の網手地区への移転が残っていることから、網手地区の整備による物揚場及びふ頭用地の早期利用が望まれている。					
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①事業費の増加（2億円） （ア）東防波堤のケーソン据付にあたり海底地形を確認した結果、当初計画していた固定式500t吊りクレーン船では施工箇所の一部で必要水深を確保できないことが判明し、クレーン船の規格を旋回式1,500t吊りへ変更したことにより工事費が増加。 ②事業期間の延伸（5年） （ア）海苔養殖の品質への影響面から漁協との調整を踏まえ、施工期間を制限(5月～9月のみ工事可能)していたが、東防波堤整備工事に伴う海水汚濁等の懸念から、近接する海苔加工場の海水使用への影響防止のため、更に制限(6月～8月のみ工事可能)することとなり、事業期間を2年延伸。 （イ）上記（ア）による更なる施工期間の限定に伴い、狭い水域での物揚場(-3.5m)と物揚場(-4.0m)の同時施工が困難となったため、事業期間を2年延伸。 （ウ）同様に、物揚場とふ頭用地の同時施工が困難となったため、事業期間を1年延伸。					
進捗状況	①真浦地区は平成25(2013)年度に事業を完了した。 ②網手地区は平成20(2008)年度に防波堤工事に着手し、防波堤275mのうち、現在までに基礎工を終え、本体工約255m及び上部工約150mが完了している。					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び対応方針 (H27年度再評価〔第1回〕)	【審査会意見】 継続妥当			【対応方針】 －		
(1)必要性	①真浦地区では、取扱貨物の一部にプロパンガス、油脂類等の危険物が人口密集地で陸揚げされている。網手地区を整備して、危険物等の荷役を移転し、住民生活の安全・安心の向上を図る必要がある。 ②網手地区は、島内中心地の真浦地区へのアクセスが容易であり、港湾整備により大型船舶の荷役作業ができる適地がある。物揚場整備により狭隘な真浦地区から網手地区へ荷役機能を移転し、水域利用の適正化を図る必要がある。					
(2)有効性・ 効率性 (執行環境状況)	①費用便益比 総事業 B/C=1.2 (前回評価時 B/C=1.6) 残事業 B/C=1.7 (前回評価時 B/C=1.2) ②旧家島町及び住民が参画と協働で作成した「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を基本とした整備であり、地元の協力体制等事業執行環境は整っている。					
(3)環境適合性	網手地区東防波堤において、防波堤内のよどみ等の環境改善を図るため、防波堤内外の海水交換機能を備えたケーソンを設置する。					
(4)優先性	引き続き地元要望も強く、港内水域利用の適正化に向けた事業の優先性は高い。出来るだけ早期に事業効果を発現させるため、物揚場 (-3.5m) を先行整備し、R5年度末までの供用開始を図る。					
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は、前回評価時と変わっておらず、網手地区への生活物資や貨物等を扱う物揚場等の整備の必要性は大きい。また、地元の要望も強いことから継続して事業を実施する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）

事業名	家島港改修		路線・河川名	家島港
事業進捗状況・予定			整備効果	
全体 (H18 (2006) ~ R7 (2025))	【事業費＝35 億円】		真浦地区の旅客船ターミナルをバリアフリー化したため、旅客船利用者の乗降がスムーズになった。	
真浦地区 物揚場(-3.5m) 60m 栈橋 35m	網手地区 物揚場(-3.5m) 60m 物揚場(-4.0m) 60m 防波堤 275m ふ頭用地 6,500m ²			
前回再評価 まで (実績)	【事業費＝ 21 億円】		真浦地区の旅客船ターミナルをバリアフリー化したため、旅客船利用者の乗降がスムーズになった。	
真浦地区〔H25完了〕 物揚場(-3.5m) 60m 栈橋 35m	網手地区 防波堤(基礎工) 175m 防波堤(本体工) 155m			
過去 5 年間 (H28 (2016) ~ R2 (2020))	【事業費＝8 億円】		—	
真浦地区	網手地区 物揚場(-3.5m) (基礎工) 60m 物揚場(-3.5m) (ブロック製作) 60m 防波堤(基礎工) 100m 防波堤(本体工) 100m 防波堤(上部工) 150m			
今後 5 年間 (予定) (R3 (2021) ~ R7 (2025))	【事業費＝6 億円】		プロパンガス、油脂類等の危険物の陸揚げを網手地区へ移転することにより、島内住民生活の安全・安心を確保できる。	
真浦地区	網手地区 物揚場(-3.5m) 60m 物揚場(-4.0m) 60m 防波堤 275m ふ頭用地 6,500m ²			

家島港改修事業（継続：再評価〔第2回〕）

位置図



目的

家島港では安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化が求められている。このため、真浦地区の旅客船ターミナル周辺の再整備とともに取扱貨物の一部を移転する網手地区の施設整備を行い、家島の住民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。

事業概要

事業区間：姫路市家島町
 総事業費：35億円
 内用地補償費：—
 事業期間：H18(2006)年～R7(2025)年
 事業概要：

【真浦地区】		
物揚場(-3.5m)改良	延長	60m
棧橋	延長	35m
【網手地区】		
物揚場(-3.5m)新設	延長	60m
物揚場(-4.0m)新設	延長	60m
防波堤新設	延長	275m
ふ頭用地	面積	6,500m ²

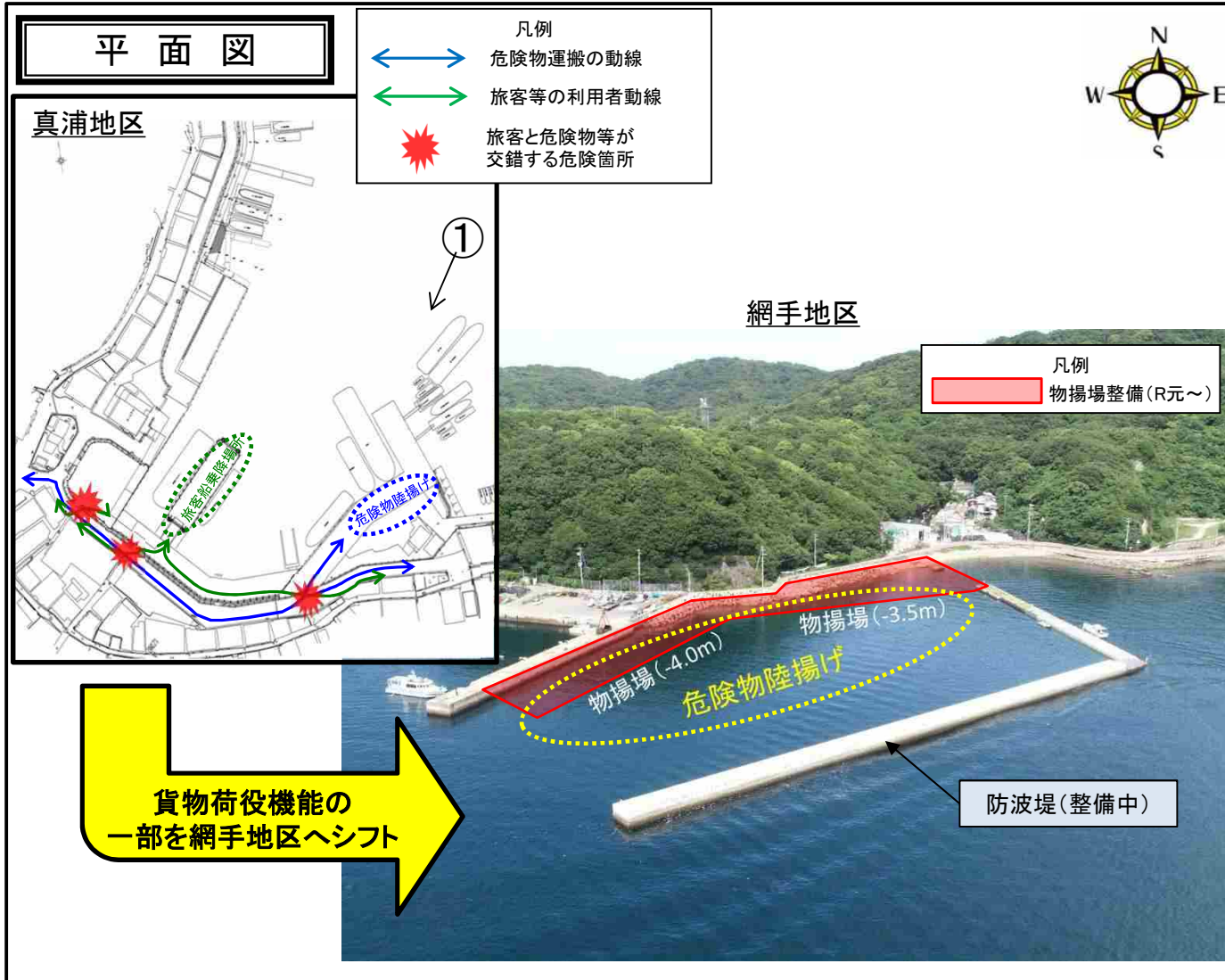
費用便益比B/C: 1.2（残事業B/C:1.7）

事業の必要性・優先性

旅客船利用者等、人の往来が多い真浦地区でのプロパンガス、油脂類等の**危険物の陸揚げ**を網手地区へ**機能移転**し、住民生活の安全・安心の確保が必要。

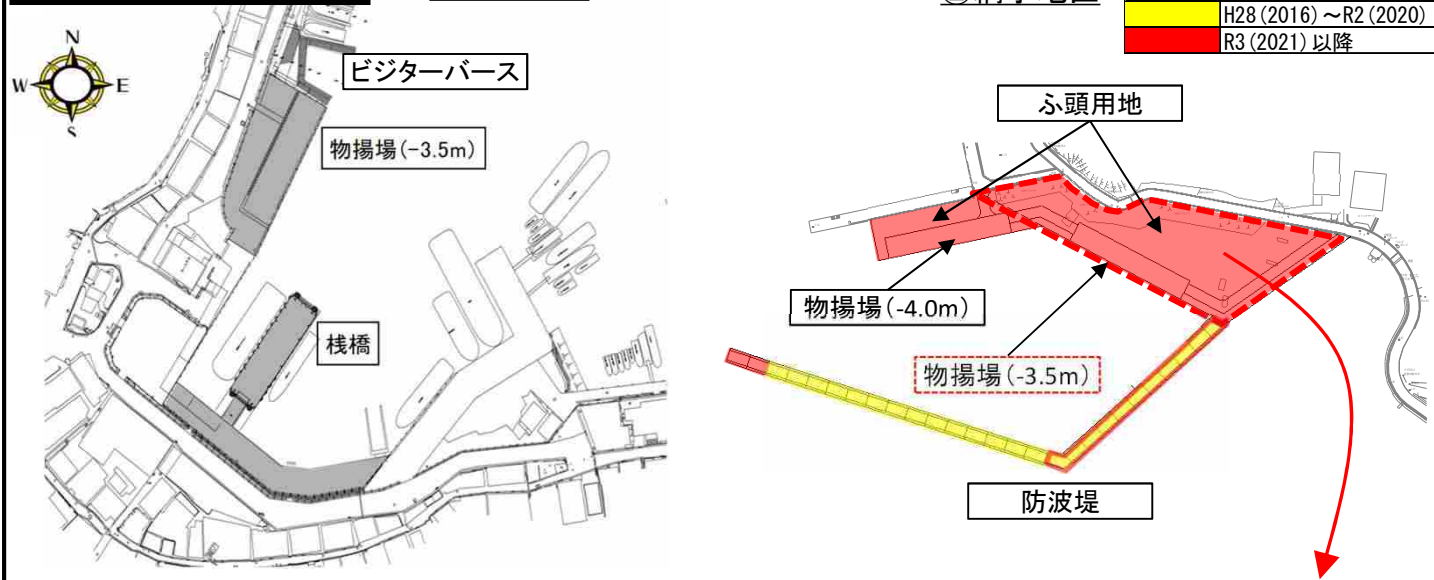
現況写真

① 真浦地区の住民生活への影響状況



進捗状況

事業進捗平面図



工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

年度	H19 以前	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
真浦地区																			
物揚場 (-3.5m) 改良				設計			施工												
栈橋			設計	施工															
網手地区																			
物揚場 (-3.5m) 新設		設計						施工				施工							
物揚場 (-4.0m) 新設		設計										施工							
防波堤新設	設計	施工							施工										
ふ頭用地	設計												施工				施工	物揚場 (-3.5m)	施工

現況写真

①真浦地区全景(施工前後)



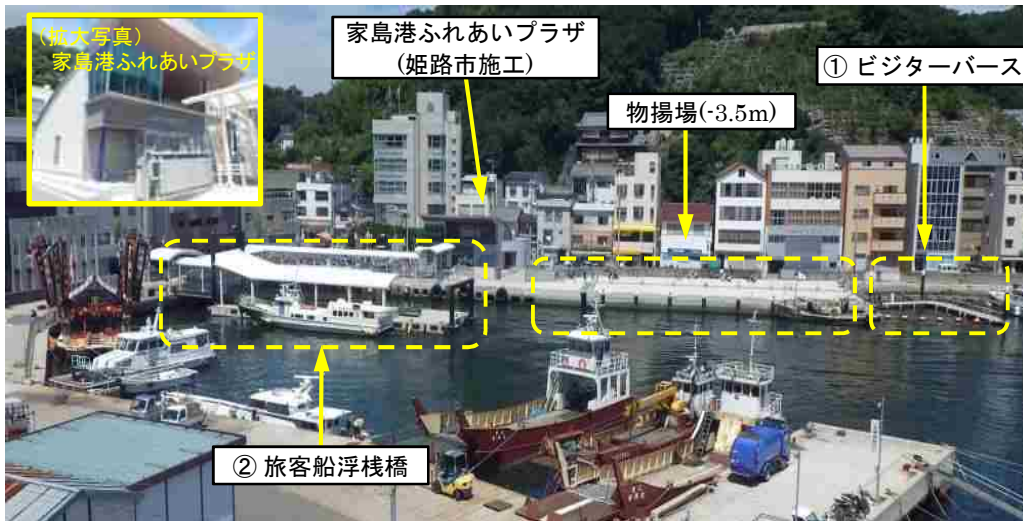
②網手地区全景(整備中)



進捗状況

真浦地区【H25整備完了】

ターミナル周辺の港湾利用状況(利便性の向上等)



① ビジターバス利用状況

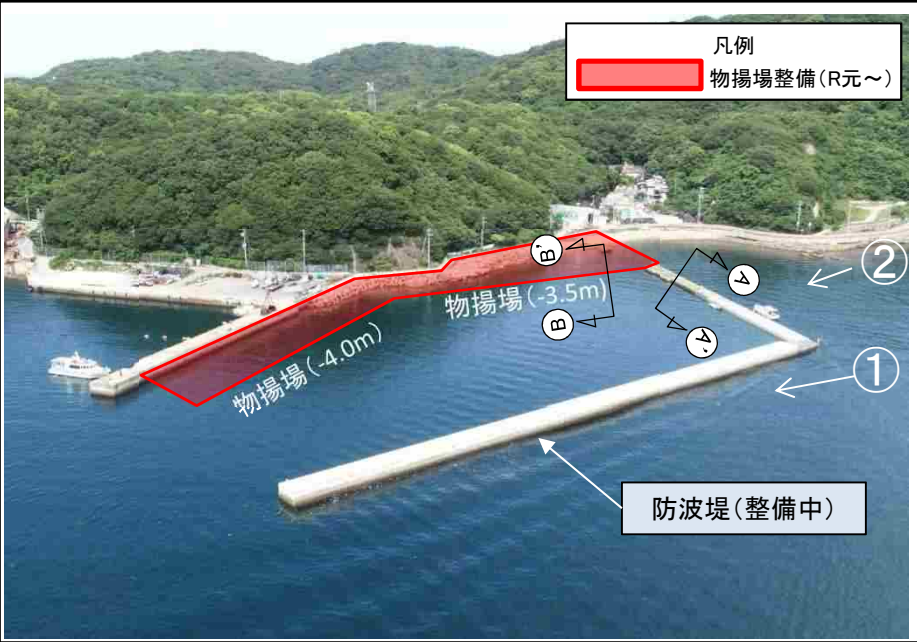


② 旅客船棧橋 (バリアフリー対応)



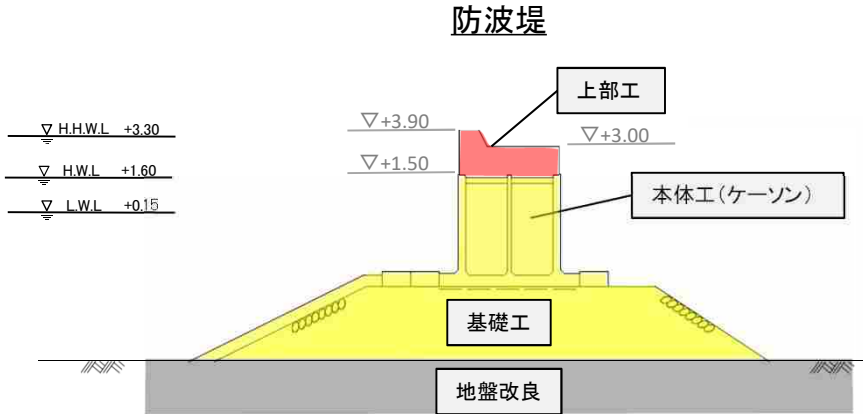
進捗状況

網手地区

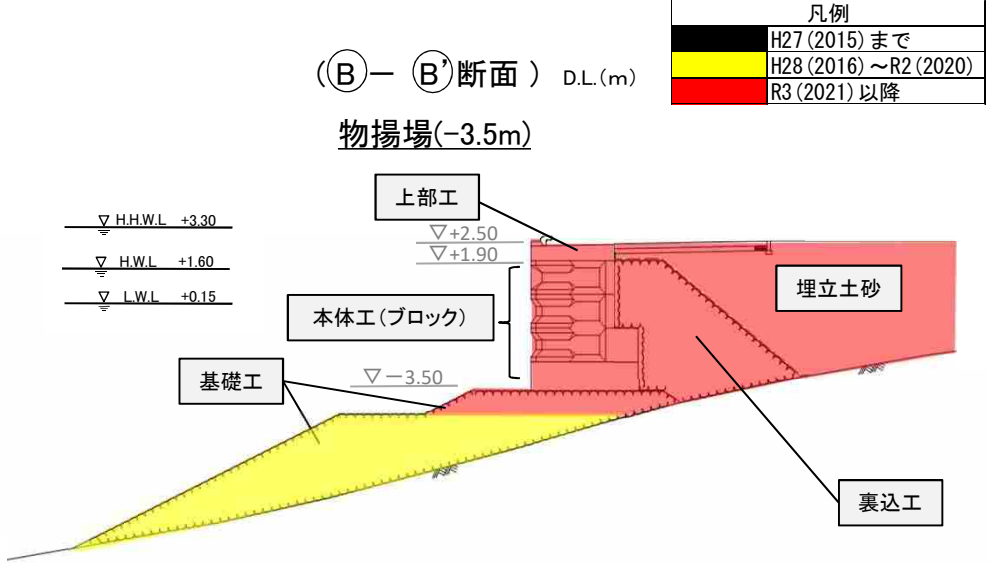


横断図

(A) - (A') 断面) D.L.(m)



(B) - (B') 断面) D.L.(m)



凡例	
	H27 (2015) まで
	H28 (2016) ~R2 (2020)
	R3 (2021) 以降

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
移動コスト、時間短縮便益	隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益
運行時間短縮便益	旅客船の離発着時間による便益
待ち時間短縮便益	貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な 効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)			
港湾	家島港 改修						全体 事業費	移動コスト、 時間短縮便益	5,368.2
		運行時間短縮便益	769.3	時間短縮 30分→27分					
		待ち時間短縮便益	198.2	待ち時間短縮 20分					
		計	6,335.8						
	家島港 改修	残 事業費	移動コスト、 時間短縮便益	—	—	567.3	517.1	50.2	1.7
			運行時間短縮便益	769.3	時間短縮 30分→27分				
			待ち時間短縮便益	198.2	待ち時間短縮 20分				
			計	967.6					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
地域 社会	環境改善	良好な景観の形成	○	真浦地区のターミナル整備による良好な景観の形成
	安全・安心の確保	危険物取扱いの人口密集地からの回避	○	網手地区整備により、人口密集地における危険物の陸揚げ回避
		通常時の安全確保	○	網手地区整備により、家島港内の船舶輻輳が改善されるため、通常時に船舶が安全に航行可能
		台風時の避難泊地の確保	○	網手地区整備により、家島港内の船舶輻輳が改善されるため、台風時に船舶の退避が可能
		緊急物資の円滑な輸送の確保	○	真浦地区の物揚場(-3.5m)を耐震化したことにより、災害時の輸送拠点として活用可
		旅客船乗降時の安全対策	○	旅客船ターミナルと棧橋を結ぶ通路をバリアフリー化したことによる乗客の安全性確保
	地域経済	離島の利活用の促進	○	家島へのアクセスにおいて、より利便性が向上するため、観光・産業等の利活用が促進

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	旧家島町と住民等が協働により作成した「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を基本とした整備であり、実現に向けた関係者の期待は大きい。
-------	---